



みんなの病院探検

リハビリテーション科

三重病院リハビリテーション科には、起き上がる・座る・立つ・歩くなどの基本動作に対する治療を行う理学療法士12名、日常生活に必要な動作や脳機能・精神機能に対する治療を行う作業療法士7名、言語・聴覚・摂食・嚥下機能に対する治療を行う言語聴覚士4名、計23名の専門スタッフが勤務しています。主に入院患者様を対象に、個々の状態に応じたリハビリテーション医療を提供しています。

当科の特徴として、小児整形分野、神経筋疾患、重症心身障害の患者様に対し、身体機能へのアプローチに加え、療養環境の調整や各種機器の紹介・導入支援など、専門性の高い対応を行っている点が挙げられます。また、言語聴覚士は耳鼻咽喉科領域においても活躍しています。リハビリテーションをご希望の方、またご相談のある方は、主治医または医療福祉相談室までお知らせください。

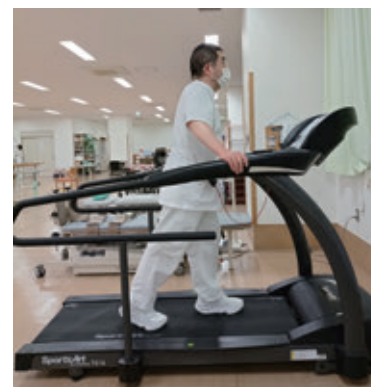
リハビリテーション科の治療スペースである機能訓練室は十分な広さと、一通りのリハビリテーション医療が提供できるだけの設備が整っています。当院の入院患者様はご病気が進行されている方が多く、スタッフも直接病棟に伺って活動することが多

いのですが、本欄に掲載の写真のように、血圧調節も含めこれから徐々に立つ練習をされる方向けの訓練機器であるティルトテーブルや、歩行訓練はもちろん、糖尿病の方などに向けた運動量確保にも活躍するトレッドミルも所有しており、幅広いニーズに応えられる体制が整っています。

リハビリテーション科では、皆様の期待に応えられるよう、これからもスタッフ一丸となって業務に取り組んでまいります。どうかよろしくお願いいたします。



▲ティルトテーブル



▲トレッドミル

(理学療法士長 楠川 敏章)

2
病棟

子どもたちの生活のひとコマ



昨年の秋から冬にかけて入院していた2病棟の子どもたちの園芸活動を通して、植物の命のバトンが見事につながりました。2026にじいるガーデン～春の花壇～では、相性抜群のパンジー&チュー

リップの競演を楽しむことができました。

実はこのパンジー&チューリップにはSDGsの視点につながる背景があります。パンジーは職員の知り合いが寄付してくれた廃棄寸前の苗でしたが、花殻摘みや切り戻し等の手入れによって生き返り、冬の寒い日々を明るく可憐に彩りました。チューリップは昨春の開花後に掘り上げて保存していた球根でしたが、今春も17本、主役のような華やかさで花を咲かせてくれました。

毎年新しく苗や球根をかうだけでなく、「今ある命や資源を大切に使う」というSDGsを意識した園芸活動を、これ

からも続けていきたいと考えています。その中で子どもたちには、咲いた花から種や球根をとり、それを次の世代が育てていくという命のバトン活動を体験することで、植物の成長や自然のサイクルへの興味を育んでももらえたらと思います。

(保育士 伊藤 真衣)

